

## ▼北陸 活動だより

### 【富山】紅葉の立山室堂散策

森 元(BBT)

新型コロナウイルスの感染も10月初旬から小康状態となり、自粛していた「歩こう会」の活動を再開した。

第110回の歩こう会は、令和3年10月19日、紅葉の立山室堂と決めた。折り悪く、数日来より日本列島は冬型の寒気団に覆われて参加者は3人。幸いにも、当日の天候は無風快晴、絶好の行楽日和となった。

9時、標高500mを超える立山駅からスタート。約10分ケーブル・カーに乗り、973mの美女平駅に着く。ここより高原バスで40分、標高2450mの室堂ターミナルまで車窓からの景色を満喫し、下車後は散策開始となる。車窓より、樹齢千年を超える巨木、立山杉に驚き、落差350m、日本一の称名の滝を眺望する。

ブナ、ダケカンバ、ミネカエデ、ナナカマドなどの紅葉の葉は眩しいばかりの綾錦。1600m地点

から視界が突然開けて、弥陀ヶ原湿原が現れる。ラムサール条約に登録された湿原は、長さ12kmに渡り一面の草紅葉と池塘が点在している。天狗平を過ぎると、程なく室堂平に着いた。みくりが池を中心に室堂周辺を歩きながら、立山の大パノラマを堪能した。昼食後は急に雲行きが怪しくなり、立山の霊気を全身に浴びて下山。

翌日は「立山で猛吹雪」のニュースが届く。

### 【石川】第8回合同展示会

本谷 公夫(MRO)

石川の各同好会の合同展示会は昨年10月5日～11日に、石川県立美術館広坂別館で開催されました。絵画・写真・俳句、古着リフォームの「結の会」の合同展示会です。

今年は、期間中176人の入場者数でした。早いもので8回目を数えます。コロナ渦中、民放クラブ・石川の合同展示会が2年続けて実現できたのは幸いです。



ところで、もともと私は写真が趣味でクラブに入ったものの、合同展で見た隣の絵画が気になつて…。自分の描きたいように描くのに、今さら絵筆でもあるまいと、iPadとアップルペンシルで「デジタル画家」に。ある日写真を絵画風に加工してくれるアプリを発見！出来栄は、まるでゴッホです。仲間から「ズルい」の声もありますが「AI絵画」を楽しんでいます。

あつ、額に入れるとランクアップ間違いなし。

### 【福井】2年ぶりの幸楽会

小川 忍(ftb)

コロナ禍で活動を停止していた2年余り。ようやく開催にこぎ

つけた北陸民放クラブ福井の親睦の集い「幸楽会」は、10月25日、古民家レストラン「杵と臼」で行われた。

「変わりなかったか？」そこにはマスク越しに再会を喜ぶ会員たちの姿と元気な声があった。

今回も昼食をはさみながら「干し柿づくり」に挑戦するイベント。ベテランの指導のもと、皮の剥き方、紐の付け方、干す場所の選定、食べ頃の時期などを聴きながら、包丁を片手に一人30個の渋柿の皮むきの作業に入つたが、集まった18人は作業中も積もる話に盛り上がりつづいた。

干し柿は正月には食せる。作業のあとは、「柿」にまつわるお題で恒例の俳句づくりだ。短冊に書きあげた名句？の数々は次号掲載。

